

素敵な音楽会

北軽井沢でひと夏を過ごした友人が8月末に帰宅されました。その時に、珍しいお土産を持ってきてくれました。それは野菜直売所のご主人からのお土産で、「皆さん、載っていますよ」と言って、8月5日の上毛新聞を下さったそうです。その地域版に、長野原町クラシック音楽の夕べ（フェスティバル 2014）で、我がグループが北軽井沢ミュージックホールでうっとりしている姿が載っていたのです。



この新聞を見て、あの日の素敵な音楽会を思い出してしまいました。これまで、こんなに楽しい音楽会を経験したことがありませんでした。写真を見ればわかるように、私たちは演奏者と同じフロアで、彼らから2～3m離れた所に座って、つまり、「かぶりつき」で音楽を聴くことが出来たのです。演奏が終わった後に、演奏者と目を見合わせて、にっこり笑いあうことが出来たなんて、夢のように素敵なことでした。それはまるで王侯貴族が、宮廷で室内楽を楽しんでいるような贅沢な時間でした。

プログラム(1) モーツァルト：ヴァイオリンとヴィオラのための二重奏曲 変ロ長調 K.424



筒井志帆 violin

群馬交響楽団の若手二人の熱演でした。演奏者は、とても若々しく、エネルギッシュでテンポも軽い。なんといっても、モーツァルト！掛け合いも楽しく、伸びやかな響きがありました。はじけるようなピチピチした演奏で、思わず、立って踊りたくなるようで、楽しくてたまらな～い！



加藤大輔 viola

プログラム(2) ベートーヴェン：ピアノ、クラリネットとチェロのための三重奏曲 op.11 「街の歌」



大島文子 clarinet



大島直子 piano

ベートーヴェンには私はいつも圧倒され、肩を抑え込まれているように苦しくなります。でもこの曲はベートーヴェンの曲とも思えない、軽やかさと弾む感じがあって、驚きました。美人姉妹の演奏が絵になるし、何と言っても彼女たちはクラリネットとピアノそのもの。曲の流れとうねりが全身にみなぎっていました。



柳田耕治 cello

プログラム(3) ブラームス：クラリネット五重奏曲 op. 115



チャールズ・ナイディック
clarinet

ブラームスは悩ましいほどの甘美さと重厚な響きが魅力的で、私は大好きなのです。このコンサートではナイディック氏のクラリネットが最大の魅力でしょう。彼の音は豊かな美しさと共に、あたたかさや情熱を感じさせてくれます。

演奏家たちが、別々に動きながらも、一つの奔流となって、突き進んでいく様子を目の前で見て、その演奏に身をゆだねて、共に音楽にひたりました。最高に素敵でした。

三大音楽家の室内楽をこのようにたっぷり聞けるとは、本当に至福の時としか表現できません。このホールは半野外



水谷晃 violin



北軽井沢ミュージックホール

音楽堂です。北軽井沢の自然の中で、木々の梢を渡る風、自由に飛びまわる虫と共に楽しみました。